



パンダのこんちゃん

紺色パンダのこんちゃんは、みんなと違う色がイヤでイヤでしょうがない。だから楽しそうに遊んでいる友達を見るといじわるしてしまう。お母さんはそんなこんちゃんを見て悲しそう...、とうとう病気になってしまいます。お母さんのために薬になる金の笹を探しに行くこんちゃんが、もっと大切なものを見つけます。

このひとに聞く 大切にしたいのは 子どものまなざし 輝くひとみ

シリーズ56

県立図書館第9回紙芝居コンクールで、和歌山病院内くろしお保育所の保育士鳴海潤子さんと森山祐子さんの合作「パンダのこんちゃん」が優秀賞に輝きました。

森山

「それと、私がちょっと悩んで落ち込んでいる時に、鳴海先生は原稿をくれたのです。絵を描きだすと悩んでいたことなどいつのまにか忘れていて、原稿を渡してくれるタイミングが良いので驚いています。」

鳴海

「お話は書くかと思って作れるわけではありませんが、森山先生は絵を描いている時がイキイキしているので、元氣を出して欲しかったのです。作品をたくさん審査員の前で発表できて賞までいただき、私が一番励まされたような気がします。」

うれしいことがうれしいことを運んできてくれる

森山

「実は、私達の絵本『うーちゃん』とクローバーみどりちゃん』がこの春出版されます。これは大人の方にも読んでいただきたいと思いい応募したのですが、まさか本物の絵本になるなんて...。出版社から連絡をいただいたときは、まるで夢をみているようでした。そしてちょうどその頃、結婚して十年目の私に初めての赤ちゃんが授かったのです。絵本が書店に並ぶのと子どもが産まれるのが同じ時期だなんて、単なる偶然かもしれませんが、本当に不思議なものを感じています。このうれしい輪が広がっていくように、これからも絵本や紙芝居を作り、メッセージを発信していきたいと思っています。」

なるみじゅんこ 1959年御坊市生まれ、美浜町在住。1992年からくろしお保育所勤務。

もりやまゆうこ 1968年御坊市生まれ、藤田町在住。1993年からくろしお保育所勤務。